

図書館報

2019 SUMMER No.46

SEASON



写真：フジビ×ビブリオバトル風景

ISSN 1349-3760

2 コラム 中野 良吾 准教授

4 SRP 活動報告

6 Library information 2019
SPRING-SUMMER

10 図書館掲示板



読書体験について

私自身の読書体験を振り返ってみることにする。最初の読書体験は、4歳頃からの母親の読み聞かせであろう。当時は自分で本を読めないし、読んでもらいたい本を自分で選んでもいなかったように思う。家にあったアンデルセン童話、グリム童話などの童話や日本昔話の全集など、かなりの数の本を読んでもらった。絵本が多かったため文章よりも挿絵の方が印象に残っている。また、今でいう視聴覚教材にあたるようなものも家にあった。レコードで音楽とともに物語が朗読されて、絵だけが描いてある本を見るというものであった。子ども心にもとても楽しく、何度も繰り返し聞いて見た。

小学生になると、国語や社会の教科書で扱われていた内容に関する本を自分で読むようになった。学校の図書室で一番多く読んだのは伝記だったと思う。友達は推理小説や歴史小説などを読んでいる人が多かったが、私はなぜか興味がなかった。また、小学4年生頃から習い事や塾の帰りに家の近所の書店での「立ち読み」を始めた。当時、漫画を買ってもらえなかった事情からか、漫画は立ち読みですませていた。今では立ち読みは難しくなっているが、当時はいくらでもできた。しかし、あまり長くいると店主が本のほこりをはらうような仕草をして追い払いにくることはしばしばあった。週刊誌、月刊誌、単行本などあらゆる漫画や雑誌を読み漁った。日曜日の昼から夕方まで4時間程度を書店で過ごし、足が棒になる感覚を何度も経験した。帰るときには心地よい疲労感とそれなりの充実感があった。

中学校時代は、高校受験を強く意識していたためか各科目の内容に関する本を読んでいた。学校の図書室はほとんど利用しなかった。学校の図書室で借りた本は1冊だけであり、それは井伏鱒二の「黒い雨」であった。なぜこの本を選んだのかははっきりとは覚えていないが、当時「はだしのゲン」が注目されていたからかもしれない。読み進めるうちに原爆被害に関する内容や表現がとてもつらく、気分が悪くなり、読み切れなかったことは鮮明に覚えている。また、読書は主に通学途中の電車やバ

スの中でしていた。私にとってはなぜかとても集中できる環境であり、今でも電車やバスでの移動中は寝ている時を除くと読書していることが多い。

高校時代は学校の図書室を定期的に利用したが、授業の課題をする合間に開架図書を斜め読みしており、本を借りた記憶はない。理系進学志望だったので科学関係の新書の類をたくさん読んでいた。また、いつみても本を読んでいるという「読書の虫」のような友人からある本を薦められ、読んで意見を交わしたことがある。人によって感動する場面や印象に残る部分がこれほど違うものかという驚きの体験をした。

大学受験浪人時代は、主に英語の教材の内容に関する文化、芸術、科学などに関する本を読んでいた。受験勉強に関係する本を中心に読んでいた。夏休みには地元の県立図書館へ行っていた。主に涼しい環境で勉強するためだったが、昼食後の30分程度は気分転換と称して、館内をブラブラしていた。大型の美術の本や地元の郷土史の本や地図などを読むというよりは見ていた。今から思うとこの時間は貴重であった。

大学入学とともに一人暮らしが始まった。実家から初めて届いた荷物には、生活用品とニーチェ、プラトン、ソクラテスなど哲学者の簡単な解説本が数冊入っていた。これらの本は父が学生時代に読んだものだった。「これくらいは読んでおけばどうか」というメモが入っていた。このうちの何冊かは読んだと記憶している。大学2年生までの教養課程の頃は、興味があるものも読もうと思い、図書館へ定期的に通った。あまり幅広い読書はできなかったが、印象に残っているのは、読書とは言えないかもしれないが、建築関係の雑誌（確か新建築という雑誌）である。当時は工学部建築学科への進学も考えていたからであろう。進路に迷った挙句、医学部保健学科へ進学した。その後は、必然的に現在の専門（精神保健学、臨床心理学）に関する本や論文を読むことが中心となり、現在に至る。

こうして振り返ってみると、私の読書体験は自分が純粹に好きで本を選んで読んだことが少なく、必要に応じた読書であり、無駄ではないが豊かな読書体験とはいえないであろう。しかし、近年、休日に読書好きな妻と古書店や書店へ行くことが多くなり、今まで手にしたことのない本を読むことが増えてきた。これからの読書体験が楽しみである。

Soka Book Wave



日本語ライティングセンター 共同イベントを開催

◆フジビ×ビブリオバトル

5月15日（水）東京富士美術館にて「フジビ×ビブリオバトル」を開催し、創大生・短大生、教職員 32 名が参加しました。

今回のビブリオバトルのテーマは「美術・芸術・アート」。東京富士美術館との連携イベントとして開催しました。当日はまず学生 3 名が本を紹介し、その後、参加者は一番読みたくなった本に投票。最多票を集めたものを「チャンプ本」と決めました。見事、チャンプ本となったのは中野京子著『怖い絵 2』（朝日出版社、2008 年）でした。惜しくも僅差で敗れたスヴェトラナ・ペトロヴァ著『ファット・キャット・アート - デブ猫、名画を語る -』（エクスナレッジ、2017 年）とスティーヴン・ファージング著『死ぬまでに観ておきたい世界の絵画 1001』（実業之日本社、2013 年）も過去に東京富士美術館で展示されたことのある作品や作家に光をあて、参加者に本の魅力を伝えました。この時紹介された 3 冊はいずれも中央図書館に所蔵しています。

ビブリオバトルのあとは、東京富士美術館の学芸員の方による常設展示室の鑑賞ツアーに参加しました。常設展示室に込められた意味や、絵画の歴史や背景などを知り、図書館と美術館の連携イベントならではの発見やアートを堪能するイベントとなりました。



『怖い絵 2』 723/N39/2 中央図書館 3F 閲覧室

『ファット・キャット・アート - デブ猫、名画を語る -』

723/P46 中央図書館 3F 閲覧室

『死ぬまでに観ておきたい世界の絵画 1001』

720/F25 中央図書館 3F 閲覧室

◆哲学カフェ

6月26日（水）中央図書館にて哲学カフェを開催し、創大生・短大生、教職員 23 名が参加しました。

「哲人プラトンと共に『言葉の力』について考えよう」のテーマのもと、文学部の伊藤貴雄教授が進行役となり、プラトンの著作『パイドロス』（藤沢令夫訳）の「言葉」について書かれた箇所を皆で音読。その後、分からなかった単語や、コンテキストなどを挙げ、それについての意見を自由に話し合いました。

『パイドロス』を読んで、「文字で記すことによって伝えようとしたことが劣化しているのでは？」といった意見や、言葉の発明は「記憶の秘訣ではなくて、想起の秘訣」という主張を自分に落とし込み考えたりしました。次第に、文字や言葉の発明は本当に良いことだったのかというテーマで、文字や言葉のポジティブな面、ネガティブな面をそれぞれに出し合いました。そして、「文字や言葉は書き残すことで、想起でき、未来の人に伝えることができる」けれども、「プラトンは文字や言葉をどうやって使っていくかを考えてほしかったのでは？」といったアイデアも提示されました。

あっという間に 90 分が経ち、言葉をキーワードにした今回の哲学カフェは、参加者同士で多くの気づきを得られるイベントとなりました。



参加者の声

・哲学に興味があったのですが、自分で本を読んでみても難しく、苦手意識を抱いていました。今回のイベントで皆が自由な意見を忌憚なく言える環境で、のびのびと考えることができ楽しさを感じました。

・初めは何が書いてあるのか理解できませんでしたが、意見や疑問を言い合っていく中で少しずつ自分なりに考えていけました。

Library information 2019 SPRING-SUMMER



『大学ランキング』に 図書館がランクイン！

朝日新聞出版『大学ランキング』（2020年版）
の大学図書館ランキングで、創価大学図書館が総
合第9位にランクインしました。

各種ガイダンスを行いました

6月度は卒論を書く準備として資料収集に役立つデータベースや図書館サービスを案内する、「論文作成のための資料収集ガイダンス」と「ゼミガイダンス」を行いました。

参加された学生や先生からは、

「DBの詳しい説明をありがとうございました。今までCiNiiぐらいしか利用した事が無かったので、文献を探す選択肢が増えました。又、閉架の案内も分かりやすく今後もしっかり図書館を利用したいと思います。本日はありがとうございました。」
「ゼミ生たちのために、わかり易いガイダンスを実施して下さい、誠にありがとうございました。学生たちが今後ますます図書館を有効活用できるよう、今日はそのための良き機会になったと感謝申し上げます。」

などの好評の声を多くいただきました。

ゼミガイダンスは担当教員からのご要望があればいつでも受け付けていますので、ぜひご利用ください。また学生個人でも図書館カウンターにて資料収集のお手伝いをしていますので、お気軽に図書館カウンターまでお越しください。

図書贈呈会を開催しました

6月17日（月）から21日（金）、
所蔵が重複するなど図書館で不要と
なった図書の贈呈会を中央図書館で開
催しました。

贈呈会を毎回心待ちにしている学生
や教員も多く、5日間の開催で延べ
887人が来場され、8,354冊の図書
が新しい主のもとへ旅立ちました。次
回の開催は秋学期11月を予定してい
ます。詳しい開催日時が決まり次第、
図書館Webサイトでお知らせします。



オープンキャンパスで 池田文庫を見学できます！



8月3日（土）、4日（日）に創価大学でオー
プンキャンパスが開催されます。中央図書館
では普段入ることができない池田文庫を見学
できる図書館ツアーを開催します。池田文庫
に一般の方が入れる機会はこの図書館ツアー
だけです。また受験生にとっても、創大生が
普段どのような環境で勉学に励んでいるか体
感できる機会となっています。オープンキャン
パスにお越しの際は是非、図書館ツアーに
ご参加ください。

ドラマの撮影に使われました



中央図書館がドラマの撮影に使われました。

テレビ朝日制作のドラマ「特捜 9 season 2」最終話の撮影が中央図書館の閉架書庫で行われ、6月26日（水）に放送されました。

閉架書庫は入庫資格があれば中に入ることができます。ドラマ撮影に使われるほどの蔵書を誇る書庫をぜひ利用してください。入庫資格を得るには、書庫利用講習会の受講が必要です。詳しくは図書館 Web サイトを見ていただくか、カウンターまでお越しください。

マナーキャンペーンを行いました



7月19日（金）～31日（水）にかけてマナーキャンペーンを行いました。

マナーキャンペーンは、図書館利用のマナーを周知して守ってもらうことで、利用者に心地よく図書館施設や資料を利用してもらいたいとの思いで毎年開催しています。

また、今年は図書館で守ってほしいマナーや決まりの案内の入ったポケットティッシュと、借りた本を持って帰るのに便利な手提げ袋を配布しました。

試験期間の早朝開館を行いました

「閉館時間を延長して欲しい」との学生の皆様からの要望と、定期試験準備期間中の学生利用が多い状況を踏まえて、中央図書館では春学期の定期試験1週間前の7月16日（火）～7月29日（月）の7時30分から、早朝開館（試行運用）を行いました。（土日を除く）

秋学期は2020年1月9日（木）～1月23日（木）の平日の8時から早朝開館を行いますので、ぜひご利用ください。（土日祝日を除く）詳しい内容は図書館 Web サイトでお知らせいたします。

読書展を開催します！

10月5（土）・6（日）の第49回創大祭期間は、中央図書館で読書展を開催します。読書展ではSRP（Soka Reading Project）が中心となり、毎年読書にちなんだ研究発表を行っています。これまでの読書展では研究発表のほかにもビブリオバトルや子供も楽しめる絵本コーナー、記念品がもらえる企画などを行いました。創大祭にお越しの際にはぜひ読書展にも足をお運びください！



中央図書館 開館日程

通常開館時間

8 : 30 ~ 21 : 00

休館

8 : 30 ~ 21 : 00

9 : 00 ~ 21 : 00

10 : 00 ~ 17 : 00

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

夏期長期貸出しのお知らせ

大学の夏季休業に伴い、図書館では長期貸出しが始まります。この機会にぜひ、たくさん
の本に出会ってください。

2週間貸出者：学部生・短大生

7月17日（水）～9月2日（月）

4週間貸出者：教職員・大学院生・通教生

・創友会・市民利用

7月17日（水）～8月19日（月）

一斉返却日：2019年9月17日（火）